

娠時に著明であつた。子宮動脈血流量は一定の傾向を示さなかつたが、コントロールに比し、ほとんど変化しないものが多くみられた。子宮内圧と心電図には変化がなかつた。

考察：PG I₂ は他の血管に比べ、臍帯動脈や胎盤で多く合成され、重症な Pre-ec/ampsia 時には、臍帯や胎盤血管の PG I₂ が減少すると報告され、胎盤循環の調節に PG I₂ が関与していると推測されているが、この機序についてはまだ解明されていない。PG I₂ は大変不安定な物質であり、PG I₂ そのものの作用を評価するのはむずかしいが、腎動脈を始め種々の血管を拡張させ、血圧を減少させる一方、子宮動脈血流量にはほとんど変化を示さないものが多くみられ、妊娠によつて PG I₂ の作用が増強することが分つた。今回の実験で、妊娠時の血流に及ぼす PG I₂ の役割を推測する1つの手がかりを得た。

まとめ：PG I₂ の投与により、(1) 妊娠時の子宮動脈は、他の動脈と異なつた血流量の変化を示す。(2) 妊娠時の母体循環の変化は、非妊娠時に比べ大きい。

(3) 子宮内圧には影響を及ぼさない。(4) 非妊娠時、妊娠時ともに心電図上不整脈を認めなかつた。

16. 腎移植 100例の経験

(腎臓病総合医療センター・外科)

○高橋 公太・東間 紘・早坂勇太郎・
前田 節夫・鈴木 利昭・山下 賀正・
光野 貫一・奥村 俊子・近森 正昭・
山縣 淳・中沢 速和・合谷 信行・
瀧之上昌平・高山 裕史・中村倫之助・
寺岡 慧・本田 宏・佐中 孜・
荒 隆一・阿岸 鉄三・太田 和夫

(同・小児科)

鳴海 福星・伊藤 克己

(同・泌尿器科) 須藤 尚美・高橋 通子

吉田美喜子・梅津 隆子

腎移植は透析療法と並んで慢性腎不全の有力な治療手技であり、現在、移植腎が着着した場合には完全に社会復帰できることが常識となつている。

最近、当センターでも腎移植症例が100例を越えたので、その成績について報告したい。

1981年6月現在、われわれは102例の recipient に生体腎移植77回、死体腎移植27回行なつた。すなわち、1次移植100例、2次移植が2例である。recipient の年齢は8~48歳、平均28歳、性別は男性70例、女性32例であり、原腎疾患は100例が慢性腎炎、残りの2例はおのお

の慢性腎盂腎炎および嚢胞腎である。

今回は特に生存率、生着率に影響を及ぼす因子について検討を加えたい。

17. 当院未熟児センター3年間の臨床的統計

(小児科)

○浦本 恭子・遠藤 隆子・茂木 令子・
足立未加子・原 倫子・山田多佳子・
永木 幸子・富本 昌子・永木 茂・
原 仁・北井 暁子・中田恵久子・
杉江 秀夫・清野 明子・山口規容子・
横田 和子・福山 幸夫

近年周生期医療の進歩はめざましく、周生期死亡率の減少と共に、生存例の長期予後の報告も増加しており、とりわけ、出生体重1,000g未滿の、いわゆる超未熟児の intact survival “後遺症なき生存”を目的とした新生児医療が最も関心の高いところである。女子医大でも遅ればせながら昭和53年4月に未熟児センター(定員15床)が開設され、院内のみではなく、院外出生の種々の high risk infant の収容が可能になつた。今回約3年経過した未熟児センターの臨床的統計集計を行なつたので、ここに報告し、今後の医療の中での反省の一材料とした。

昭和53年4月~55年12月までの入院総数は377名で、院外283名(75%)、院内94名(25%)であり、新生児期死亡は377名中49名(13.0%)であつた。これを年次別にみると、53年は入院79名で死亡14例(18%)、54年は155名、死亡20例(13%)、55年は143名、死亡15例(10%)と、わずかながら死亡率の減少をみているが、その死亡率を1,000g未滿の超未熟児に限つてみると、53年は5例中5例死亡で死亡率100%であつたのが、54年は58%、55年は33%と大きな差がみられている。1,000g以上2,500g未滿の低出生体重児の死亡率は、3年間で殆ど差がないが、2,500g以上の新生児では、53年13%から55%8%わずかながら死亡率の減少をみている。疾患別の内訳としては、未熟児の特発性呼吸窮迫症候群を中心とする肺疾患が最も多く、次に黄疸、仮死があり、先天性心疾患も29例、消化管閉鎖などの外科的疾患18例、その他多発奇形など多岐にわたつている。生存例328例中、11例に事故や感染症などの遠隔死亡がみられ、この11例を除く317例中、21例(7%)に何らかの後遺症がみられている。いわゆる未熟児網膜症は、780gで出生した超未熟児1例にみられ、一側は高度の弱視、一側は失明した。この3年間に、設備、スタッ